

日本ジオパーク認定記念セレモニー

～ジオパークが地域に与える影響～

を開催しました



八峰白神ジオパークが日本ジオパークに認定されたことを記念して12月2日にセレモニーを開催しました。「ジオパークが地域に与える影響」をテーマに、県内外のジオパーク関係者による講演や、意見の交換を行ないました。

ジオパークは“漢方薬”

基調講演では山陰海岸ジオパークで活躍中の鳥取環境大学の新名阿津子さんが講師を務められました。山陰海岸ジオパークは3府県6市町村にまたがり、2010年には世界ジオパークに認定されています。

まず、「ジオパーク」については、地球で起こっている様々な要素を“時間と空間を超えて考え、つなげていくモノの見方”であると説明。「地質・地形」だけに注目するのではなく、地域のこと全体つながりを感じ、深く理解できる取り組みであると述べられました。

また、地域振興については、「ジオパークは特効薬ではなく漢方薬」。始めたからといって勝手に観光客が増えるというのではなく、地域が徐々に良くなっていくものである、と薬に例えて説明。そして「ジオパーク認定はゴールではなくスタートライン」であり今後の皆さんのがんばりが重要になると述べられていました。山陰海岸では研究者、ガイド、観光業、地域団体など各分野の方々が積極的に参加し、学校教育、生涯学習、観光にジオパークが活用されています。観光商品としては山陰線（鉄道）を利用したジオライナーやジオ弁当などが商品化され、地域を訪れる観光客の方に提供されているそうです。

一般町民・市民の方々の意識にも、「地域には何もない」から「あれもある、これもあるぞ」と地域を見直す変化が起きたそうです。

講師の新名さん

